

むかちゅうセンター（元向島中学校）を拠点 とした活動と参加の輪が広がっています！



元向島中学校の教室、体育館、グラウンドを向島のまちづくりや住民の交流などに活用できるようにした施設「むかちゅうセンター」の利用や活動、参加者の輪が広がっています。

定期的な集まり・取組を紹介します。

カレー喫茶（二の丸社協）	毎月第1月曜日／12:00～14:00／1階交流ルーム
向島ユースセンター （青少年の居場所づくり）	毎週金曜日／17時～20時／2階交流ルーム・体育館 問い合わせ▶京都青少年活動センター TEL:075-611-4910
歌の集い	毎月第1, 第3, 第5木曜日／14:00～15:30／1階交流ルーム
きまぐれサロン	毎月第2, 第4木曜日／14:00～15:30／1階交流ルーム
小学生の学習会	毎週金曜日／17:00～20:00／1階交流ルーム
ふれあいカフェ	毎月第3月曜日／11:00～14:00／1階交流スペース
みんなのカフェ	毎月第2, 第3, 第4木曜日／11:30～13:30／1階交流ルーム
「交流スペース」オープン	毎週月曜日～木曜日／9:00～12:00／1階交流スペース 毎週金曜日／10:00～12:00／1階交流スペース
中国帰国者「夕陽紅（シーヤンホン）の会」	3階交流ルーム年間常時利用
向島インラインスケート教室	毎週水曜日／18:15～19:30／体育館 問い合わせ▶TEL:090-3821-0131（門川）
和太鼓ユニット神威の練習	毎週水曜・木曜／16:00～18:00／体育館
西アフリカのたいこグループ	毎週水曜・土曜／12:00～15:00／体育館
リベルタ・サッカースクール	毎週金曜日／16:00～19:00／グラウンド 問い合わせ▶TEL:090-6459-4278
小学生ラグビー教室 （NPO法人：京都伏見クラブ）	毎月第1, 第2土曜日／15:00～17:00／グラウンド 問い合わせ▶TEL:075-323-1762
日本語教室 ライビングループ バasketボール教室	毎週日曜日／10:00～15:00／体育館

「むかちゅうセンター」を利用して会合や活動を実施したい方は、毎月第2火曜日18:30～19:30 1階交流ルームで開催の「利用者会議」にご出席ください。

「向島まちづくりビジョン令和元年度第4回推進会議」は延期となりました。
新型コロナウイルス感染拡大予防のため、4月以降に延期となりました。

「拡大合同ワーキンググループ会議」は中止となりました。

1年間の振り返りと来年度の活動展望を話し合う場として企画していましたが、上記同様の理由で中止となりました。代わってビジョンによるまちづくりや活動の広がり、今後について話し合う場を開催する予定です。決まり次第お知らせします。

発行：向島まちづくりビジョン推進会議

■事務局・問い合わせ先

京都市都市計画局都市企画部都市総務課 担当：池田、片山、嵯峨

電話：075-222-3610 ファックス：075-222-3689

メール：toshisomu@city.kyoto.lg.jp

向島の魅力情報・まちづくり情報は

向島まちづくり情報発信ポータルサイト

向島まつり

検索



問い合わせ

TEL:080-5326-4841

～向島ニュータウン再生・向島地域の活性化～
「人の力で、まちはかえられる」

向島まちづくり通信 第18号

令和2年3月30日発行

中文版，請看下面的網址。<http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000199646.html>

「むかちゅうセンター」で行われている 『向島ユース（若者）センター』に、多くの中高生が参加

毎週金曜日、午後5時から8時頃まで「むかちゅうセンター（元向島中学校）」で行われている『向島ユース（若者）センター』に、多くの中学生や高校生が参加しています。

『向島ユースセンター』は、「向島ユースセンター実行委員会」と「京都市伏見青少年活動センター」が主催して行っている取組です。

若者が「ぼーっ」とできる場所、 みんなでスポーツができる場所をつくりたい

中学生や高校生など若者が学校の授業を終えた後、自由に集まって、おしゃべりをしたり、「ぼーっ」とできる場所をつくろうと、向島ニュータウンセンター商店会にある「京都文教マイタウン向島（MJ）」で、『向島ユースセンター』の取組がはじまりました。

ところが、会場のスペースが狭く、集まる中学生や高校生の人数は限られていました。

「むかちゅうセンター」に場所を移して、 取組が軌道に乗り始めました！

転機になったのは、『向島ユースセンター』の会場を、「向島秀蓮小中学校」の開校により、昨年2019年3月に閉校し、同年8月より地元住民が利用できるようになった「むかちゅうセンター（元向島中学校）」に移したことです。

スポーツをしたい、「ぼーっ」としたいという中学生や高校生ら若者が、毎回20人～30人集まるようになりました。いま、人気なのは、体育館で行うバスケットボールです。

『向島ユースセンター』は、中学生から30歳までの若者なら、向島地域に住んでいなくても、誰でも無料で参加で

き、次のようなことができます。

①体育館では、バスケットボール、バレーボール、バトミントン、卓球②グラウンドでは、サッカー、キャッチボール、フリスビー③2階交流ルームなどでは、しゃべる、「ぼーっ」とする、自習、相談、みんなで料理をつくるなどです。

「向島ユースセンター」の中高生を取材したラジオ 番組「むかいじまダイアリー」が放送されました

2月21日（金）、京都文教大学の学生が、『向島ユースセンター』に参加している中学生や高校生を取材。

この取材をもとに、2月24日（月・祝）「京都リビングFM（FM845）」のスタジオに、「向島学生センター」のコスタリカ、中国からの留学生、京都文教大学の学生、『向島ユースセンター』のボランティア学生、伏見青少年活動センターの職員が集まり、ラジオ番組「第2回むかいじまダイアリー」の収録が行われ、3月8日（日）お昼の12時から30分間「FM845」で放送されました。



▲2月24日、「FM845」のスタジオでラジオ番組「むかいじまダイアリー」の収録が行われました。

『向島ユースセンター』 京都市伏見青少年活動センター
の問い合わせ TEL:075-611-4910

※新型コロナウイルス感染拡大のため、実施しているかどうか、お問い合わせ下さい。



毎年恒例

向島藤の木小学校グラウンドで「ふじのきとんど祭り」、 元向島南小学校グラウンドでは、「とんど祭り」が行われました

「とんど焼き」とは、お正月に飾った門松や松飾りなどを、地域の人達で集めて焼く年中行事・火祭りです。1月11日「ふじのきとんど祭り」、1月12日には、向島南学区の「とんど祭り」が行われました。

1月11日（土）朝10時から、向島藤の木小学校PTA主催の「ふじのきとんど祭り」が、向島藤の木小学校グラウンドで行われました。

「ふじのきとんど祭り」は、向島藤の木小学校開校以来毎年1月に行われており、子どもたちや父兄にとって、新しい年をみんなで祝い、子どもたちの健やかな成長を願う行事になっています。

開会のあいさつに続き、「とんど」に点火されました。

藤の木小学校児童の「藤の木鼓笛バンド」の演奏が行われ、ぜんざい、きなこもちなどが、振る舞われました。



1月12日（日）朝8時から、向島南自治連合会主催の「とんど祭り」が、元向島南小学校グラウンドで行われました。

竹やヨシでつくられ、住民のみなさんが持ち寄った「書き初め」なども供えられた「とんど」に点火され、まもなく炎が天高く上がりました。

参加者には、ぜんざいや、きな粉もちなどが振る舞われました。

昨年までは、向島南小学校PTA主催で行われてきましたが、昨年4月「向島秀蓮小中学校」開校に伴い、向島南小学校が閉校したため、今年は向島南自治連合会主催で行われました。



向島秀蓮小中学校の正門横に『巨椋池（二ノ丸池）址』の駒札

昨年12月27日、向島秀蓮小中学校の正門横に、「巨椋池（二ノ丸池）址」の駒札が京都市によって立てられました。駒札には、次のように記されています。

『巨椋池は、京都盆地の最も低いところに位置し、宇治川・桂川・木津川が合流する場所に生まれた巨大な湖で、東西4キロメートル、南北3キロメートルにも及ぶ京都府下最大の淡水湖であった。』

水域面積は、794ヘクタールと広大であり、平均水深は、0.9メートルと極めて浅い池ではあるが、多くの魚介類・鳥類が生息し、水性植物が繁茂するなど、多様な動植物の生息地として人々に恩恵を与えてきた。

古くは、万葉集にて「巨椋の入り江」と歌に詠まれており、文人墨客にも愛された景勝地であった。また、蓮の名所としても広く知られ、舟をうかべて蓮を鑑賞する「巨椋池の蓮見舟」は遊宴としても賑わっていた。巨椋池は、一つの大きな池沼であったが、豊臣秀吉の築堤後、大池、二ノ丸池、

中内池、大内池等に分割された。その後、昭和8年には国内で初めてとなる国営干拓事業に選定され、干拓地として生まれ変わり、その姿を消した。

この池は、巨椋池を南北に分割する小倉堤の東側、向島城の南方に位置し、干拓前までは漁場・狩場等として生活が営まれていた巨椋池（二ノ丸池）の跡地である』

向島地域には、向島の歴史を案内する駒札が、3月に立てられた「鷹場」を示すものを含め、11本建てられています。



▲昨年12月27日、向島秀蓮小中学校正門横に、「巨椋池（二ノ丸池）址」の駒札が設置されました。

『千姫さま講演会』に、多くの参加者

2月24日（月・祝）、「千姫さま講演会一向島城・伏見城での千姫さまから、姫路城での千姫さまを紐解きますー」（主催：姫伝説探究会、協力：姫路千姫顕彰会）が、「むかちゅうセンター（元向島中学校）」の交流ルームで開催されました。

千姫は、徳川幕府二代将軍となる秀忠と、妻で織田信長の姪、淀江与（お江）の長女として1597年4月11日に生まれました。徳川家康の孫でもあります。

千姫は、指月伏見城内にあった徳川家の屋敷で生まれたとされていますが、指月伏見城は、前年の1596年7月12日に発生した慶長大地震によって大きな被害を受けており、いち早く修理を終えた向島城内の徳川家下屋敷で生まれたという説も有力です。

千姫の父、徳川秀忠は千姫誕生の祝いに、「千姫神輿」を御香宮に奉納。いまでも、毎年秋に行われる御香宮の例大祭でお披露目されます。

1603年7月、7歳になった千姫は、当時11歳の豊臣秀吉の遺児、秀頼と大坂城で結婚しました。

1615年5月に「大阪夏の陣」で大坂城は焼け落ち、夫の秀頼と、秀頼の母・淀君は自害し豊臣家は滅び

ましたが、千姫は祖父・徳川家康の命により落城する大坂城から救出されました。

千姫20歳の時、姫路城主・本多忠政の息子、忠刻（ただとき）と再婚、姫路城に移りました。

1626年に夫・忠刻と死別、娘・勝姫と共に姫路城を出て出家し、「天樹院」と号し、江戸城で70歳の生涯を終えました。

講演会では、「姫伝説探究会」の津田昭二さんが、千姫誕生から姫路へ移るまでを講演。

「姫路千姫顕彰会」の新福杉夫さんが、「黒田官兵衛と千姫」と題して、姫路城に移ってからの千姫について、「黒田節」の歌などを交えながら講演されました。



みんな食堂『MJキッズキッチンwith愛隣館』が行われました



2月8日（土）、『MJキッズキッチンwith愛隣館』が、「むかちゅうセンター（元向島中学校）」で行われました。この日のメニューは、「芋煮」です。

『MJキッズキッチンwith愛隣館』は、年2回、2月と8月に、京都文教マイタウン向島（MJ）を会場に行われてきましたが、愛隣館が建て替え工事中で、「むかちゅうセンター」に引っ越してきているので、愛隣館に通う障がいのある方との出会う機会にと、今回は「むかちゅうセンター」で行われました。

朝10時に集まった子どもたちや、愛隣館に通う障がいのある方やスタッフ、父兄、愛隣館の職員、二ノ丸・二の丸北民生・児童委員協議会、京都文教大学の

先生などのみなさんが、「芋煮会」の材料を準備、グラウンドに炉をつくり、大鍋からは白い湯気が上がりました。

会場の、交流ルームには、「にじいろプロジェクト」「向島と愛隣館の歴史」「沖縄・命（ぬち）どう宝」「原発事故が招いた現実」「被爆アオギリ」などの展示が行われました。

会場は、参加者で満員。開会にあたって、今回「芋煮会」代表、5街区に住む矢吹さんが、郷里の山形県ではじまった「芋煮会」発祥のいきさつをまじえてあいさつ。

できあがった芋煮とおにぎりが参加者に振る舞われました。午後1時30分から、交流ルームで、グループに分かれ、「自己紹介ゲーム」が行われました。

